

平成24年3月
越前市（福井県）

・平成23年度フォローアップ結果のポイント

計画期間:平成19年11月～平成25年3月(5年5月)

1. 概況

平成19年11月に認定を受けてから5年目を迎え、目標とする定住人口の増加と交流人口を拡大する取組みを進めている。

中心市街地の居住人口は平成19年比で8.2%減少しており、特に生産年齢人口の減少率は同期比で12.9%減で急激に落ち込んでいることが課題である。

当初計画目標値の想定増加戸数309戸と増加人口680人の達成に向けての取組みを進めた結果、平成23年度末の達成状況は、戸数が301戸で達成率97%、人口が552人で達成率81%と、概ね予定どおり進捗している。

定住人口増加に向けた取組みにより、民間優良賃貸共同住宅25戸、戸建住宅着工9戸、まちづくり会社による空き家解消19戸など成果は出ているが、高齢化率が38%と高く自然減の増加や若年世代の転出が多く、依然として人口減少に歯止めがかからない状況にある。

交流人口増加に向けた取組みは、蔵の辻での壱の市、参の市等の賑わいイベント支援に加え、魅力ある個店づくりや販売促進事業への取組みにより、集客効果を上げつつある。

まちなか観光促進では、バスツアーの誘致により約2,600人が訪れたほか、蔵の辻や京町、卍が辻周辺の寺社、風情ある街並みを散策する観光客が増えている。

蔵の辻における壱の市、参の市は、賑わいの柱として定着し、一定の集客効果はあるが、さらに取組みの輪を広げるため、周辺商店街や地域住民との連携を強化し、武生独自の“歳時記”をテーマに歴史文化を活かした取組みを進める必要がある。

なお、中心市街地地域外での動きとして、大型商業施設シピィが平成22年3月に閉店し周辺地区の空洞化が課題となっていたが、別の運営管理会社が建物を取得し、新たな核テナント誘致により平成24年5月営業再開を予定しており、中心市街地への影響を含めて動向を注視する必要がある。

基本計画に位置付けられた51事業のうち、10事業が完了し、ソフト事業など38事業が現在実施中で、未完了が3事業(うち1事業が未着手)である。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
住みよく、多様な住まい方ができる中心市街地	居住人口	6,320 人 (H19)	6,450 人 (H25)	5,799 人 (H23)		
多様な主体の活動と交流による“にぎわう”中心市街地	休日の歩行者数	994 人 (H19)	1,300 人 (H24)	1,565 人 (H23)		

注) 取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

居住人口

民間事業者による共同住宅が整備され、空き家の橋渡しや戸建住宅の整備が進み、社会増に一定の効果はみられるものの、少子高齢進展による自然減が大きく、減少傾向に歯止めがかからない。目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じていく必要がある。

休日の歩行者数

ほぼ計画どおりに事業が進捗し、その効果が表れており、目標達成可能であると見込まれる。

5. 今後の対策

これまでの事業成果や課題を検証した結果、見極めを行った事業を、残りの計画期間内で着実に進捗させる。

アンケート調査の結果によると、中心市街地居住者の満足度は高く、住み続けたい人の割合が約6割あるのに対して、区域外から中心市街地への転入を希望する割合が低い。中心市街地内は居住満足度が高いにもかかわらず、土地・建物の権利関係が複雑で、住宅の改築更新ができず郊外へ移転する若年世代が多いと推測されるため、今後は区域外へ流出させない定住化対策及び市外からの定住化を促進するソフト支援事業の見直しが必要である。

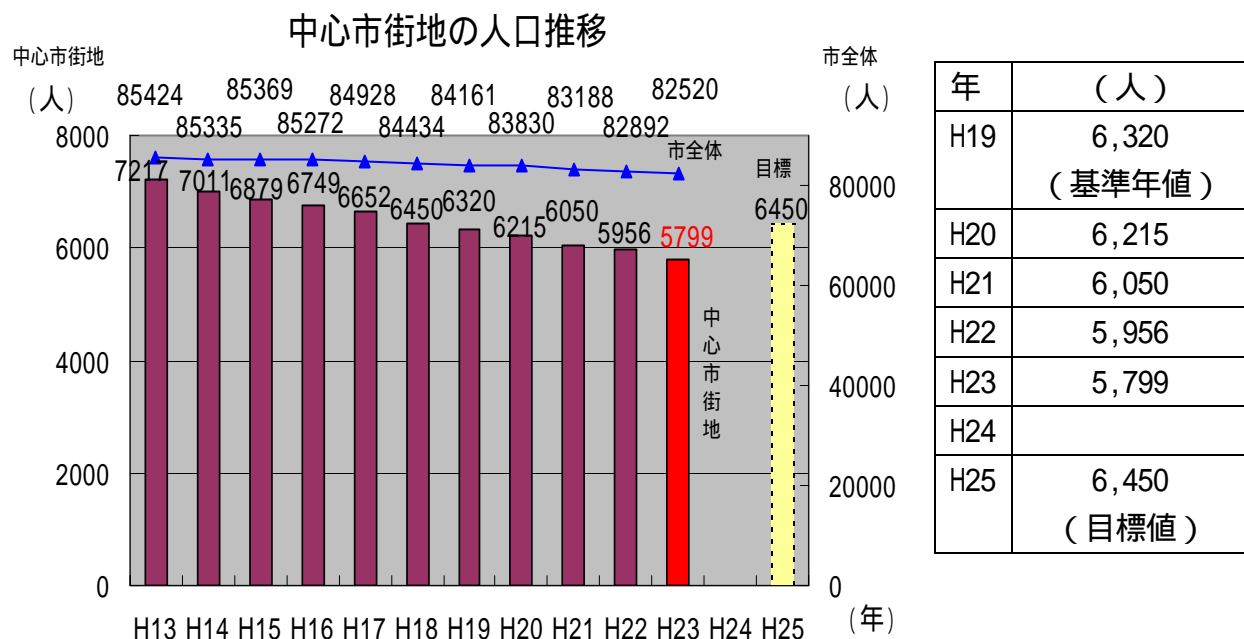
居住人口が減少している課題については、市全体でも市外への人口流出が進んでいることから、若年世代を中心に定住化を促進し、これまでのハード整備支援に加えて、新婚世帯への家賃補助などソフト事業を強化することで、社会増加を促進する。

交流人口の拡大対策については、これまでの取組み効果が表れていることから、“歳時記”をテーマに歴史文化を活かした賑わいづくりにより、地元の事業者や地域住民の参加を促す取組みを促進する。

・目標「居住人口の増加」

「居住人口」 目標設定の考え方基本計画 P 45～P49 参照

1. 調査結果の推移



調査方法；中心市街地区域での住民基本台帳登録人口

調査月；各年 4 月 1 日時点の調査

調査主体；越前市

調査対象；中心市街地内居住者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・民間優良共同住宅整備促進事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H27年度
事業概要	民間優良共同住宅の整備を支援する。
事業効果又は進捗状況	H22年度までに57戸が整備され、H23年度は25戸整備された。若年世帯の増加に寄与している。

・高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H27年度
事業概要	高齢者向け優良賃貸住宅の整備と入居者家賃を支援する。
事業効果又は進捗状況	H22年度までに105戸が整備され、高齢者の快適な居住環境づくりに寄与した。H23年度は実績ないが、法改正に伴い「サービス付き高齢者向け住宅制度」が創設され、医療・介護・住宅が連携し安心できる住まいの供給を促進する。

・特定優良賃貸住宅供給促進事業（越前市）

事業完了時期	【未】H27年度
事業概要	特定優良賃貸住宅の整備を支援する。
事業効果又は進捗状況	H23年度までに実績なし。中堅所得者層向け住宅であるため、一般の住宅より設定家賃は高く、経済状況の変化により、入居者の需要が見込めなくなっており、今後の事業効果が見込めない。

・町屋風共同住宅整備促進事業（越前市）

事業完了時期	【未】H27年度
事業概要	景観計画重点区域において町屋風共同住宅の整備を支援する。
事業効果又は進捗状況	H23年度までに実績なし。工事費が割高となり家賃へ跳ね返るため、建物更新の需要が見込めない。

・住宅用地等購入資金利子補給事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H24年度
事業概要	個人が土地を購入し住宅を建設した場合に、支払利息の一部を支援する。
事業効果又は進捗状況	H22年度までに6戸認定し、戸建住宅の整備促進に寄与した。H23年度は実績ないが、戸建住宅支援制度としてPRに努める。

・まちなか住宅団地整備費補助事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H24年度
事業概要	500㎡以上の一団の住宅団地の整備を支援する。
事業効果又は進捗状況	H23年度までに実績無し。対象となる候補地が少なく、需要が見込めない。面積要件の緩和や補助対象経費の補助率引上げを今後検討する。

・福井の伝統的民家普及促進事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H27年度
事業概要	福井の伝統的民家に認定された町屋、土蔵等の整備に対し支援する。
事業効果又は進捗状況	H23年度から支援制度を創設し2件整備された。風情ある街並み整備のため、伝統的民家の保存改修を促進する。

3.目標達成の見通し及び今後の対策

需要が見込めず進捗していない一部の事業を除き、計画された事業は概ね予定どおり着手されているものの、居住人口は平成19年比で8.2%減少し、自然減、社会減ともに多く、目標達成は困難な状況にある。

しかし、当初計画目標値の想定増加戸数309戸及びその増加人口680人の達成に向けた取

組みは進捗しており、既に増加戸数 301 戸で達成率 97%、増加人口 552 人で達成率 81%に達している。

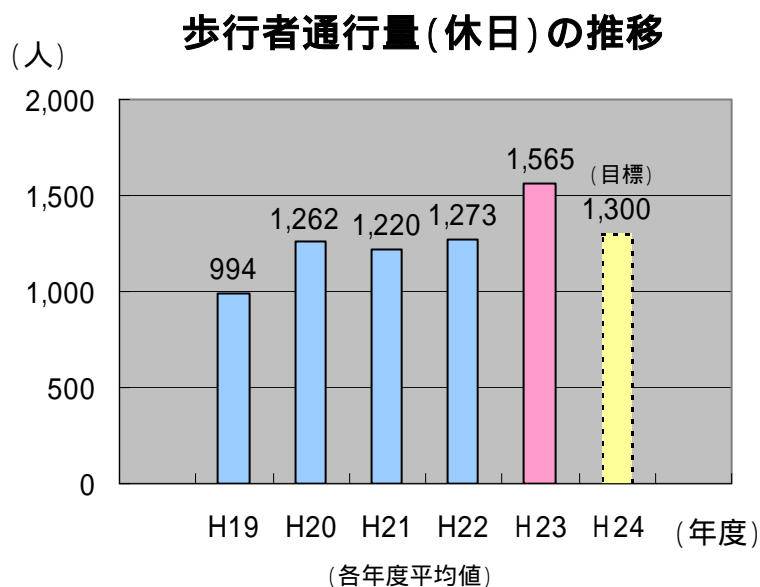
中心市街地居住者の居住満足度は高く、住み続けたいと思う割合が高いことから、将来の世代にわたり住み続けられる環境整備が必要である。

中心市街地の高齢化率は 38%と高く、高齢人口は平成 19 年比で 2.2%増加しているのに対して、生産年齢人口は 12.9%も減少しているため、その増加対策として、中心市街地居住者の郊外転出を抑制する施策や、市外からの転入を促進する施策により、定住化支援を今後強化する。

・目標「交流人口の増加」

「休日の歩行者数」 目標設定の考え方 基本計画 P 50 ~ P 60 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H19	994 (基準年値)
H20	1,262
H21	1,220
H22	1,273
H23	1,565
H24	1,300 (目標値)

調査方法；交通量調査（毎年度5月、8月、10月の3回実施）

調査月；毎年度5月、8月、10月実施

調査主体；越前市

調査対象；休日の歩行者数を5地点計測、合計し、年度平均値を算出。

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・ 元が辻・タンス町周辺地区回遊コース整備事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H24 年度
事業概要	回遊コースの道路景観整備、ポケットパークを整備する。
事業効果又は進捗状況	H23 年度までに当初計画路線の高質化舗装、サイン整備が完了した。さらに路線を追加し、回遊コースとして魅力ある街並み景観を目指す。

・【追加】街なみ景観整備助成事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H24 年度
事業概要	景観計画重点区域において、住民が主導する景観協定区域内の住宅、店舗の改修、新築に係る工事費を支援する。
事業効果又は進捗状況	四町地区内の住宅、店舗、駐車場などH22 年度までに 10 件認定し、H23 年度 5 件認定した。魅力ある街並み景観形成に寄与した。

・時間制駐車場確保事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H24 年度
事業概要	空き地を賃貸借で活用し、来街者用駐車場として開放する。
事業効果又は進捗状況	短時間利用可能な駐車場として機能し、市内外からの受入れ場所として活用できたことで、交流人口の増加に寄与した。

・福井の歴史的建造物保存促進事業（越前市）

事業完了時期	【未】H27 年度
事業概要	国登録文化財の保存改修を支援する。
事業効果又は進捗状況	H23 年度までに実績なし。新規認定を進め、歴史資源の保存を推進することで、まちなか回遊を促進する。

・蔵の辻・商店街活性化事業（壱の市実行委員会、武生商店街連盟 外）

事業完了時期	【実施中】H24 年度
事業概要	蔵の辻にて「市」などのイベントを開催する。
事業効果又は進捗状況	壱の市、参の市、関連イベントを年間 28 回開催し、来場者数 18,326 人(前年比 22%減)で、交流人口の増加に寄与した。

・まちなか観光 P R ・観光客誘致事業（越前市、タケフ都市開発(株)、武生観光協会）

事業完了時期	【実施中】H24 年度
事業概要	旅行エージェントに対するツアー企画を誘致する。
事業効果又は進捗状況	H23 年度は県外の観光ツアー会社とタイアップし、県外からバス 65 台 2,300 人が訪れ、まちなか観光、散策の促進に寄与した。

・武生公会堂記念館文化力向上事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H24 年度
事業概要	博物館機能の充実と特別展、企画展、館蔵品展の開催。教育普及事業「えちぜん学・集・楽」の開催。
事業効果又は進捗状況	H23 年度入館者数 18,448 人(前年比 3.2%増)。たけふ菊人形と特別展との連携企画「越前国府を歩く」で、まちなかへの集客を高めた。

・【追加】まちなか観光・賑わい創出事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H23 年度
事業概要	まちなか観光案内所「まちなかプラザ」を拠点に、まちなか観光情報や蔵の辻界隈のイベント情報を観光客に提供する。
事業効果又は進捗状況	H23 年度入館者数 9,763 人(前年比 43%減)、まちなか観光情報の提供や観光バスツアー対応、商店街販促会場として機能した。

・まちなか事業・地域助け合いビジネス開業支援事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H24 年度
事業概要	新規事業主に対し、家賃、設備等の補助を行い、まちなかでの開業支援を行う。
事業効果又は進捗状況	H22 年度までに 22 件認定し、H23 年度7件認定した。まちなかの魅力ある個店づくりに寄与した。

・【追加】おもてなしの店等推進事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H24 年度
事業概要	店舗の内外装改造やトイレ、休憩所設置工事に対する費用補助により、魅力ある個店づくりを支援する。
事業効果又は進捗状況	H22 年度までに5件認定し、H23 年度は1件認定あり、魅力ある個店づくりに寄与した。

・【追加】元気な事業者グループ支援事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H24 年度
事業概要	地域資源を活かした商業活性化チャレンジ事業を支援する。
事業効果又は進捗状況	H22 年度までに7件認定、H23 年度は6件認定あり、各団体の創意工夫ある取組みにより、まちなかの消費拡大や賑わい創出に寄与した。

・【追加】まちなか賑わい創出支援事業（越前市）

事業完了時期	【実施中】H25 年度
事業概要	蔵の辻での賑わい創出イベント実施を支援する。
事業効果又は進捗状況	H23 年度 6 件実績あり、蔵の辻を中心にした賑わいづくりのイベント支援により、まちなかへの集客を高めた。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

計画した事業は概ね予定どおり着手されており、その効果として交流人口は増加傾向にあり、目標達成は可能と見込まれる。

平成 23 年度の休日歩行者通行量は平成 19 年比で当初目標値 30%増を大きく上回る 57.3%増を達成した。毎月の恒例行事として定着した壱の市、参の市等のイベント開催や、まちなか観光ツアーによる誘客、魅力ある個店づくりの進捗による集客効果が表れている。

アンケート調査結果においても、まちなかを訪れる頻度が計画策定当時の4年前と比べて増加した割合が高く、これまでの事業効果が表れている。特に 30～40 代の子育て期の女性や、50 代以降の団塊・高齢世代が多く訪れる傾向があり、散歩・散策を目的にした来訪者数も増えていることから、こうした特性を活かした取組みを進めていく必要がある。

今後は中心市街地を訪れる子育て世代や団塊・高齢世代の満足度を高め、地元商店街や地域住民が主体となった活動強化を目指した取組みを促進する。